

事例31 単元「ふるさと七尾に発信しよう」

## 一人一人の学びの広がりをめざす総合的な学習の時間の実践 ～地域との関連を図った実践を通して～

総合的な学習の時間 第3学年  
七尾市立朝日中学校・教諭

### 1 事例の概要

本校では各学年ともに週2時間の学習を基本としながらも、規定の時間の中で、学習内容によって柔軟に時間を確保しながら実践を行っている。これは生徒の活動がより効果的に行われることに配慮したものである。本時間では「ふるさと学習」を内容としながら、体験活動を重視した問題解決型学習を展開していくことを基本としている。そして「ねらい」と「到達点」・「生徒に身につけさせたい力」を明確にした学習を心がけていくことで、教師－生徒間、生徒－生徒間で学びの方向性が共有できるようにしている。また、学習内容が深化・発展していくように連続した学びとなるように位置付けを工夫している。

これらの活動を通して、身につけた力が生徒の生活の中で能動的に生かされる経験化されたものとなっていくことをめざしている。また、小学校で身につけた力を把握し、それが中学校での学習にも生かされていくことにも配慮している。

**A-1 本校の総合的な学習の時間のねらい**

**A-2 各学年のテーマと活動の概要**

**A-3 身につけたい力**

**A-4 評価の方法と評価の観点**

**A-5 総合的な学習の時間と他教科の関連**

### 2 実践内容 3年生 「ふるさと七尾」に発信しよう～未来の主演として～

#### (1) 単元の見どころ

- ・「学ぶ姿勢」や「学び方」「学ぶ力」をより高いレベルで生かすことができる。
- ・課題を解決するための方法や技能を場面に応じてよりよく使うことができる。
- ・自ら課題を見つけるとともに、課題解決のためのよりよい方法を考え、見通しをもって進んでそれを解決しようとする。
- ・学習の成果をまとめることを通して、自分の考えを構築し、よりよい発表を行うことができる。
- ・主体的に活動し、自己の生き方に反映させることができる。自己決定力を身につけることができる。
- ・集めた情報を整理し、自分の考えを明確にすることができる。
- ・自分の主張がよりよく伝わるようにまとめ、効果的に発信することができる。
- ・ふるさとへの愛着を深め、ふるさとを誇りに思う心情を高めることができる。

#### (2) 指導上の工夫点（視点）

##### ① 学びのスキルの定着について

- ・教師・生徒両者が、設定した「身につけたい力」の定着を意識していく。教師は、授業の中で「身につけたい力」を意識しながら指導する。その中で、「身につけたい力」が生徒自身によって自由に駆使できる力として昇華されていくことをめざす。

##### ② 体験活動の充実

- ・学びの質を高めるために、フィールドワークなどの校外での体験活動を充実させていく。

##### ③ 「ねらい」と「到達点」の明確化

- ・生徒、教師、外部講師、訪問先の方々と活動のねらいを共通理解する場を設けていく。

### 3 指導の実際

学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
①七尾市役所政策推進課の方々とのワークショップ	・「住みやすい七尾」をキーワードに自由に意見を出す。指導助言を受ける。	・外部講師との打ち合わせを十分に行う。ねらいや身につけたい力を共有化しておく。
②発信テーマの決定	・生徒自身から生まれた課題に基づいてテーマを決定する。	・見通しをもって、現実的なテーマが決定できるようにしていく。
③東京フィールドワーク	・班別にフィールドワークを行う。東京から七尾をみる。	・訪問先との打ち合わせを十分に行い、ねらいや身につけたい力を共有化しておく。これまで身につけたスキルの実践の場となるように支援する。
④七尾フィールドワーク	・東京フィールドワークで生まれた課題をもとに、七尾でフィールドワークを行い、検証を行う。	
⑤発信準備	・成果と課題をまとめる。	・考えが明確に構築できるように助言していく。
⑥発信 ・保護者に対して ・地域の方々について ・七尾市役所に対して ・学びの発表会を通して ・ふるさと七尾大事典の発行を通して ・新聞・ラジオを通して	・校内外に発信していく。	・生徒が発信したものが、受信側にどのように受け止められたかを生徒に返していく。生徒の自信となっていくように支援する。

#### C-1 指導案

#### C-2 概要

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

3年間の学びの連続性を持たせ、発展していくようにしたことで、生徒の学びに深まりと広がりがみられた。深まりとしては「知る」→「深める」→「発信する」という段階にあわせて、より高いレベルで学びを追究しようとする姿勢が生徒にみられたことがあげられる。また、広がりとしては、身につけたい力として設定した力を、3年間の中で繰り返し実践していくことで、自らの力として応用し、自由に駆使している生徒が多くみられたことがあげられる。

#### (2) 課題

資料A-4掲載の方法や観点で評価を行っているが、生徒のよい点や学習に対する意欲や態度の高まりの状況をよりよいかたちで適切に評価するために、生徒の実態に合わせて少しずつ改善を試みている。その中で現在特に重視しているのが生徒自身の「ことば」である。生徒自身の「ことば」から、どのような学びがあったのかを教師が読み取ることが現在の課題である。ワークシートの設問の方法などを含めて、今後更に実践を積み重ねて明らかにしていきたい。